

# NPO法人 女性医療ネットワーク News Letter

## 第28号 (2015年10月発行)

発行/女性医療ネットワーク事務局  
〒104-0061 中央区銀座 2-5-5 壹番館ビル 4F TEL: 03-3538-0250  
e-mail: info@cnet.gr.jp イラスト/カワハラユキコ 制作/あづま堂印刷(株)

報告

## 2015「エイトの会」ツアー 〜東北を応援し、青森県と交流するツアー〜

2008年から続いている毎年夏の恒例の八戸ツアーで、今年は第8回となります。8月1日(土)〜8月3日(月)の2泊3日で、八戸三社大祭と青森ねぶた祭りを見学のほか、朝市、八甲田の温泉、酒造見学・蕪島神社参拝・お買い物・バーベキューと夏の青森県を思いきり遊んで、楽しんで来ました。

女性医療ネットワーク事務局

成田嘉奈子

毎年恒例の八戸ツアーを8月1日(土)〜8月3日(月)に開催しました。

八戸三社大祭と青森ねぶた祭り見学のほか、八甲田の温泉・海岸バーベキュー・朝市等、楽しみがいっぱい詰まったツアーに、のべ26名が参加してくださいました。お忙しい中、やむなく途中参加、途中離脱された方たちも、それぞれ楽しんでいただきました。

1日目(8月1日)、昼に八戸に着いてすぐ八食センターへ。好きなものを買ってろばたで焼いたり、お刺身にしていただいたり、汗を拭き拭き堪能しました。午後は八戸三社大



▲青森ねぶた祭一踊人(はねと)の皆さん

▼八戸三社大祭懇親会にて権現様(獅子頭)と



祭。40台以上の山車が進むのを見物。この日は強風のため、残念ながら例年のように山車が最大に拡がる場面は見られませんでした。各町内総出で1年間かけて企画・制作した渾身の山車は迫力です。そして夜は割烹「金剛」での懇親会にて八戸市の皆様と交流しました。金剛の社長のご配慮で、会場に権現様(獅子頭)が来て下さり、門付(かどづ)けを。歯を打ち鳴らす「音歯打ち」と権現様に頭を噛んでもらう「身固め」に一同感激。その後は屋台街に繰り出すメンバーも。

2日目(8月2日)は岸壁の朝市で始まりました。八戸せんべい汁、八戸ラーメン、コーヒー、焼き鳥やから揚げ。おすすめの田子にんにくなど、思い思いに楽しめました。そして朝市から戻ったところでサブライズ。対馬

ルリ子先生の高校の同級生熊野さんが、とうもろこしを夜明け前に収穫してゆでて差し入れてくださいました。本当に甘くて美味しかったです。その後、バスで青森に移動。お昼は八甲田の蕪温泉でお食事と入浴。ほっとの



▲蕪島神社で正式参拝

3日目(8月3日)、蕪島神社を参拝して、ウミネコと写真をとって、「カブを上げた」(蕪島神社のご利益)後、八戸酒造を見学。ここのお酒、八仙の利き酒は、毎年の八戸ツアーに無くてはならないものとなっています。その後、かねと水産で生きたウニ・アワビなどの海産物、アルパジヨンで朝の八甲田(チーズケーキ)をお買いもの。

そしていよいよツアーもクライマックス。天然の芝生が美しい種差海岸で、種差観光協会のボランティアの皆様が、バーベキューのお世話をしてくださいました。ビールやワイン、熱々のウニにアワビにエビやホタテ、特製カレーも堪能しました。その後、再び八食センターでお弁当やおつまみを買って、帰りの新幹線でもワイワイ飲んで、食べて…。とにかく盛りだくさん2泊3日の旅は無事終了しました。参加して下さった皆様、迎えて下さった皆様、本当にありがとうございました！

# 「女性の健康の包括的支援に関する法律」の早期成立を望む緊急集会

女性医療ネットワーク理事長  
対馬ルリ子



昨年来、自民党・公明党を中心に参議院の議員立法として法案提出してもらい成立を待っていた女性の健康の包括的支援法がなかなか審議入りしないことに業を煮やして、8月26日に、なんとか早期成立を！と超党派の国会議員に呼びかける会を参議院議員会館で主催しましたので、報告します。

昨年来、自民党・公明党を中心に参議院の議員立法として法案提出してもらい成立を待っていた女性の健康の包括的支援法がなかなか審議入りしないことに業を煮やして、8月26日に、なんとか早期成立を！と超党派の国会議員に呼びかける会を参議院議員会館で主催しましたので、報告します。

り、昨年提案していただいた法案は衆院解散でいったん廃案となってしまったため、今回の国会ではなんとか全会派一致で通していただきたい、どうしても全会派が難しければ何が障害になっているのかを明らかにしたいと願う、この会を開くことにしました。連携団体は、当会以外に、日本産婦人科学会、日本看護連盟、女性の健康とメノポーズ協会など、女性の医学や健康関連の23団体です。また、昨春秋に東大で行った「女性の健康文化祭」と同様、WAW! Tokyo（外務省主導の女性の活躍週間シャインウィークス）の一環として行いました。

参加してくださった議員は、発議者となる薬師寺みちよ議員、武見敬三議員、森まさこ議員ほか、高階恵美子議員、川田龍平議員、牧山ひろえ議員、赤枝恒夫議員など十数名。

呼びかけ団体からは、本法案への期待として、日本産婦人科学会理事、東京大学教授の大須賀稜先生、家族計画協会理事長の北村邦夫先生、日本助産師会会長の岡本喜代子先生より

熱いメッセージが述べられました。大須賀教授からは、なぜ包括的支援が必要か？という理由として、急速な社会環境の変化、特に女性の社会進出や少子化、晩産化、寿命が長いことなどによって、例えばこのような症例が増えている！と具体的な症例が紹介されました。

「25歳で子宮内膜症のため月経痛が強いが仕事で忙しく受診しなかった女性が、32歳で結婚し36歳で不妊症となって初めて婦人科を受診したところ、内膜症が進行しており体外受精を繰り返すことになったが、結局妊娠できなかった。46歳で子宮内膜症の卵巣のう腫ががん化してしまい卵巣の摘出手術を受けた結果、エストロゲンが低下して骨密度が減少しただけでなく、リンパ節を摘出したので両足のリンパ浮腫に悩まされることになった。その後70歳代で骨量減少による骨折をくりかえすようになった。」

……という症例です。だから、ライフコース

# 女性医療ネットワーク次世代委員会発足のお知らせ

女性医療ネットワーク理事  
池田裕美枝

2015年8月16日女性医療ネットワーク次世代の会が対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座内、スタジオで開かれました。

参加者は、理事長対馬ルリ子先生、理事村島温子先生、自称若手現理事として清水なほみ先生、池田裕美枝のほか、11名の20〜30代（40代前半）の自称若手「次世代」医師が参加しました。Web会議システムを用いて、他2名の医師も参加しています（下記表）。

まず対馬理事長から女性医療ネットワークのこれまでの12年間の歴史、と題して、設立の経緯、目的、これまでやってきたことなどを紹介いただきました。その後美味しいサ

ンドイッチとワインをいただきながら、自己紹介タイムとなりました。専門科の違うそれぞれの医師が、これから実践していきたい女性医療を熱く語ってくれました。これまで大切に関わってきた患者さんを思い浮かべながら、また、女性として医師としてこれまで歩んできた道を総括しながら、今後自分が目指す社会の実現のために仲間を得たことを心強く語り合いました。かわいいお子さんを連れて参加された先生も複数名あり、もちろん独身で現場で踏ん張っている医師も複数名いて、ワークライフバランスの多様性も担保できていたメンバーでした。

このメーリングリストまたはweb会議で今後の活動指針を話し合うこととしております。また、来年日本医事新報社から女性診療をテーマにした本が発刊予定となっておりますが、これを対馬ルリ子先生と池田の共同監修として、各項を現理事・次世代理事候補の共著で執筆していただくこととなりました。

次世代委員会は今後まず同志として「互いに顔を見たらほっとする関係」を作りたいと思います。参加ご希望の方は池田のメールアドレス yuniekoga@gmail.com までご連絡ください。その上で、バイタリティ溢れる先輩方へ乗り遅れないように、新しいことを吸収し、日本女性がもっと輝く社会の実現に向けて精進してまいります。今後ともどうぞよろしくご指導のほどをお願いいたします。



## 8/16次世代の会 参加メンバー（現理事4名を除く）

国立成育医療研究センター	母性内科	金子佳代子
国立成育医療研究センター	母性内科	三戸麻子
国立成育医療研究センター	母性内科	橋本就子
国立成育医療研究センター	妊娠と薬情報センター	後藤美賀子
東京医療センター総合内科	在宅医療部	杉谷真季
東京北医療センター	産婦人科	楠本彰子
昭和大学病院	リウマチ・膠原病内科	磯島咲子
聖路加国際病院	女性総合診療部	小野健太郎
聖路加国際病院	女性総合診療部	小野陽子
聖路加国際病院	女性総合診療部	小野木さちえ
浜松医科大学	地域家庭医療学講座特任教授	井上真知子
淀川キリスト教病院	産婦人科	柴田綾子
京都大学大学院	社会健康医学系専攻医療経済学分野	寺岡恵美

（■色はweb会議参加）



# 女性の健康学校 ジョイラボ

第76回講座（4月26日）

## 子宮頸がん予防のための「HPVワクチン」と「自己採取HPV検査」の普及が急務

北海道大学大学院医学研究科  
総合女性医療システム学講座  
シャロン・ハンリー

子宮頸がんの予防には二つの大きな武器があります。それは検診とワクチンです。ただ、他の医療介入と同様にワクチンにも検診にもリスクもベネフィットもあります。しかし「医学的な介入」はリスクをはるかに上回る利益があるときにのみ導入されているのです。

子宮頸がん検診は素晴らしいものです。早期発見のみならず、前がん病変を見つけるためにも役立ちます。多くの先進国で検診が広まったことにより、1960年以降、子宮頸がんの死亡率・罹患率は急激に減少しています。しかし、子宮頸がん検診はあくまで診断行為であって、HPV感染や前がん病変の発症を防ぐことはできません。発見された病変の治療のための財政的負担のみならず、検診で女性が受ける身体的（精密検査や円錐切除による痛み・流産・早産）、かつ精神的な（発がん性ウイルスに感染していること、精密検査の結果、不妊、円錐切除後の再発などの不安）負担は減ってはいません。また、子宮頸がんのリスクが比較的

高い性暴力、性的虐待・DVの被害者の受診率は低いですし、受ける意思があっても身体が拒否する女性も少なくありません。したがって検診を受けやすくするために採取方法の抜本的改善が必要です。そのような点で自己採取HPV検査は心理的負担が少なく、自宅で実施可能で、かつ感度の高い、優秀な検診方法です。私は昨秋から通常の検診を受けたがらない女性のために、自己採取HPV検査の導入に力を入れています。

HPV感染そのものを予防するには、何よりもHPVワクチンの接種です。子宮頸がんは予防できる疾患です。検診受診率が高い、英国、オーストラリアでも、早い段階から主に思春期の女子を対象にしたHPVワクチンの無料接種事業が導入されました。HPVワクチンは子宮頸がんの減少だけでなく、HPV関連疾患の医療費や、この疾患に関わる精神のおよび身体的負担を軽減できます。経済力のある国のほとんどは、女性を守るために検診とワクチン接種事業を両輪にして子宮頸がん予防に積極的に取り組んでいます。このような政策が日本の社会にも早く受け入れられることを願っています。

第77回講座（5月13日）

## 『虐待・イジメ・DV』生活環境不全による心身への影響

NPO法人女性支援ネットワークゆめあ代表  
竹部広子

社会問題であり自分の経験や身近で起り得る問題として『虐待・イジメ・DV』を取り上げサバイバーになった時に身体的にどんな影響が出て生活にどんな影響をおよぼすのか？を一緒に共有し考えてみました。多くは「トラウマ」によるもので、治療するにもなかなか難しく普段の生活にも大きな影響を及ぼすことや家庭内でのコミュニケーション

ケーションの大切さなどをお伝えしました。減少することのない社会問題……今一度、自分の身近で起り得る問題として心に留めて頂き家庭の中でも話し合いのきっかけになって頂けたらと思います。

第78回講座（5月24日）

## 『医療と環境』女性だからこそこできる、自分らしく働く環境づくり

ジョインハンズ株式会社 代表取締役  
輿石光希

私は、26年看護師として働いていました。多くの時間を管理職として働いていたのですが、医療環境の変化は目まぐるしく、働く環境、働き方（意識）も変化してきていました。看護師の就職者数は160万人、病院などで働いていない潜在看護師は70万人と年々増加しています。現場で必死に働いている方、退職後現場復帰が難しい方、一人ひとりの背景は様々です。

私は、結婚、妊娠、出産、子育て、人生も仕事も独立するなど、その都度悩みながらも自分で決め、周りの人に支えられながら前進してきました。女性だからできること、女性だからこそ楽しめることなど、少し視点を変えて捉えると自分らしく働くためのヒントが見つけれられます。自分の人生、納得する選択をしていきましょう。マザーテレサの言葉のように、思考は運命まで変えるのですから。

第79回講座（5月24日）

## 女性に対する暴力をなくしていくために

お茶の水女子大学名誉教授  
戒能民江

DVやストーカー、セクシュアル・ハラス

メント、痴漢、強姦など、女性に対する暴力への社会的関心は、以前より高まってきました。しかし、被害は相変わらず多く、その深刻さと影響の大きさは、ほとんど伝わっていません。国の調査では、成人女性の約15人に一人は「異性から無理矢理性交されたことがある」と回答しています。相談のハードルは思ったよりも高いです。世間一般で考えられているのは異なり、「見知らぬ他人」よりも、むしろ、夫や交際相手、親きょうだい、職場の上司など「顔見知り」の加害者のほうが多く（75%）、訴えにくいことと、「なぜ逃げなかったのか」などと被害者が非難されてしまい、被害者は自分が悪いのだと沈黙してしまうのです。「女のノーはいエス」など、社会には「強姦神話」がはびこっています。身近なところで、粘り強く人びとの意識を変えていくことが大切です。

第80回講座（6月28日）

## 性差を考慮した健診・検診を考える

荒木労働衛生コンサルタント事務所  
荒木葉子

今回の講座の内容は、1. 私が関心を持ってきたこと、2. 性差医学とは、3. 統計からみた性差医学、4. 日本の健（検）診・保健指導と米国の健（検）診・保健指導、5. 心血管疾患へのアプローチの違い、6. メタボリックシンドロームと逆メタボ、7. 社会的性差・雇用と健診、8. 性差医学を学びたい人のために、9. これからの健康施策の在り方、としました。

1997年に結成され、性と健康を考える女性専門家の会が、堀口先生、対馬先生、朝日エルの皆様との出会いのきっかけでした。女性の働くことと健康について関心を持って活動しています。米国のInstitute of Medicineが1999年に出版した「Exploring the Bio-

Medical Contributions to Human Health: Does Sex Matter? (人間の健康にとって「性」は重要であるか?)」を2003年に「性差医学入門」として出版しました。生殖器官や乳房以外の臓器にもさまざまな性差があることを、死因、罹患率、症状、診断などについて説明しました。職場で行われている定期健康診断、メタボ健診と、米国で行われている予防医学・医療システムの違いを説明し、米国のものがより性差に着目したものであり、健診だけではなく情報提供やカウンセリング、予防接種など包括的なものであることを示しました。我が国の行政による健診は必ずしも女性の健康リスクにマッチしておらず、あるものは過少、あるものは過剰であることを示し、また受診率に雇用差が歴然として存在することを示しました。性差医学を学びたい人に役立つサイトを紹介し、健康施策に性差の視点を生かすには私たちは何をすればよいのか、などを一緒に考えました。

和やかな雰囲気の中、たくさん質問をいただき、活気のある講演会になりました。素敵な機会を与えてくださった対馬先生に感謝します。

### 第81回講座 (7月8日)

## 女性のための 予防医学

より質の高い人間ドックを目指して

医療法人財団白葉の会銀座医院

竹田義彦

健診・ドックでは、女性の健康を守る為に女性特有のライフサイクルを考慮したプログラムを確立することが必要です。閉経後にはエストロゲンが低下することによって種々の疾患の発症リスクが増加します。LDLコレステロールの上昇とともに動脈硬化の危険性が高くなり、骨粗鬆症による骨折リスクも増加します。睡眠時無呼吸は高血圧や認知症な

ど多くの疾患を引き起こす病態であり、顎の小さい日本女性には多いと考えられています。呼吸を刺激するプロゲステロンが減少する閉経後の増悪には気を付けなければなりません。乳がん検診に於いて注意すべき点は、日本には乳腺密度の高い女性が多く、このような乳房ではマンモグラフィとともに超音波を行う事で腫瘍発見の精度の上昇が期待できるということとです。子宮頸がんは性交渉で感染するヒトパピローマウイルスが原因であることが明らかにされており、若年層に多いがんである。若い年代が子宮頸がん検診を積極的に受けることを希望します。

このように女性のライフサイクルに加え日本女性の特徴を考えた質の高い予防医学を行うことが日本の女性の健康を守るために重要です。

### 第82回講座 (7月26日)

## 乳がんのお話

湘南記念病院乳腺甲狀腺センター長

土井卓子

日本では乳がんにかかる女性が急激に増えていて、毎年7万5千人、12人に一人の女性が罹る時代になりました。女性の悪性腫瘍の罹患率1位となっています。しかし死亡率は4位です。その理由は乳がんは自分で触れることができ、検査もマンモグラフィや超音波で簡単に発見でき、治療も根治性が高いからです。

治療も変化しています。局所のコントロールは手術と放射線治療、生命を守るにはホルモン剤や化学療法剤(抗癌剤)、分子標的治療(ハーセプチン)で転移を起こさないようにします。以前のように進行度だけで治療を決めるのではなく、各個人のがんの広がり、性格(ホルモンに影響されるかどうか、HER2という増殖因子を持っているかどうか、活動性)で治療の方法を決めるようになって

りました。

乳房に異常がなくても検診を受けましょう。もし、しこりを感じたら乳腺外科を受診しましょう。万が一乳がんと診断されたら、自分の病状を正しく理解して上手に治療を組み立てるようになりましょう。

### 第83回講座 (8月9日)

## 副腎疲労を 知っていますか?

聖マリアンナ医科大学放射線科

米国アンチエイジング専門医

岸本桂子

ホルモンにはいろいろありますが、それらのホルモンの相互作用や全体のバランスについてはあまり知られていません。アンチエイジング医療では、まず副腎から分泌されるコルチゾールというホルモンに注目します。別名ストレスホルモンとも言われ、他のホルモンに対して強い影響力を持っています。人間が生存していくためには、ストレスや危険から身を守らなければならず、強いストレスにさらされると、逃げるか、戦う必要があります。

この時、副腎から分泌されるのがコルチゾールです。血圧や血糖値にも影響を及ぼし、コルチゾールがたくさん放出されているときにはインシュリンの作用である糖の取り込みが阻害され、いわゆる「インシュリン抵抗」が起こります。このように長期間強いストレスにさらされると、副腎が疲弊して機能不全になってしまふことがあるのです。また、コルチゾールが大量に作られると性ホルモンが相対的に少なくなってしまう、病気になるやすい状態になり、老化も早まります。副腎は小さな臓器ですが、アンチエイジングにとって重要な役割を担っています。

### 第84回講座 (8月23日)

## ツキを呼ぶ 自分のカラー

幸せになる色彩の魔法

株式会社ドムデザイン 代表取締役

建築家 戸倉蓉子

色彩が人間の身体に及ぼす影響は大きい。例えば、同じ1時間でも赤い部屋に入ると過ごすのと青い部屋に入ると過ごすのでは時間の長さが違って感じられる。そのような色の特長を味方につけると色の選び方がわかって来る。例えば患者の不満調査で常に上位にある「待ち時間が長い」という問題もインテリアの色彩で短く感じさせることが可能である。これらはライトトーン値という色を数値化したものに基づいて客観的にも判断することが出来る。

さらに、大切なのがパーソナル色彩。環境の主役は人間である。洋服の色彩、メイクの色彩、似合う色を身につけているだろうか。似合わない色を身につけると老けて見えたり、疲れて見えたりするが似合う色なら若々しく輝いて見える。

8星人スタイルアップシステム®は自分に合う色とスタイルを発見するツール。なりたいたい自分に近道でなる事もできる自分ブランドینگでもある。いつからでもなりたいたい自分になろう。



# 被災地中学生の メルボルン 派遣報告

西松園内科医院  
齊藤恵子

皆様の暖かい御支援をいただき、今年も8月31日から9月11日まで若手から東日本大震災被災地の中学生5人をメルボルンに派遣することが出来ました。善代村から男子3名、女子1名、野田村から女子1名でした。

毎回、メルボルン在住の秋元みどりさんには、受け入れ校の選定、ホームステイ先など多くの交渉のご苦労をおかけしていますが、今年は郊外の山に近いフェアヒルズスクールにお世話になりました。オーストラリアで初めて日本語を外国語教育にと

▼表敬訪問の後、日本領事館前にて



▲上) 送別会で挨拶をする生徒たち  
下) 校長先生とお世話になったスタッフの方々

り入れた学校との事です。校長先生をはじめ教員の皆さんが明るく、暖かく接して下さいました。

滞在7日目、生徒達は自分達の村の被災状況や復興の過程、地元の産物、学校の紹介を英語で行いました。

野田中学からの女子生徒は一人で野田中学ソーラン踊りを衣装をつけて踊ってみせました。発表前にオーストラリアの生徒に津波の状況を教えるようにビデオを見せた時、彼女は一瞬悲鳴をあげ泣きました。すぐに立ち直りましたが、まだまだあの日に受けた心の傷は深いのだと思います。

学校に折紙や習字を教えたりもしました。学校の要望で再びソーラン踊りをみせた時は、小学生達は一緒に踊り出したり、ほほえましい交流がありました。

最終日、学校側は送別パーティを設けて下さり、校長から生徒5人と付添の菅原先生に修了証書が手渡しされました。これからも続くこの事業のための募金活動や来年の受け入れも検討して下さいました。

暖かい気配りの中で5名の生徒達はすっかり打ち解け、表情、態度に

自信が感じられました。出発前、善代中学の校長先生が「この体験できっと彼等に良い変革がおきることでしょ」と期待の言葉を述べられましたとあり、将来の成長が楽しみです。

漁業が主たる産業の村で漁船は全部流され、経済的危機に陥りました。この村には3000名の村民がおり、その命を守っているのは唯一の村立診療所の女医一人です。この村の生徒をメルボルンに連れて行って欲しいとその女性医師の方が切望したことが発端となり、村長、教育長も応援されました。奇遇ですが北緯40度のこの村の真下メルボルンは南緯40度です。将来、復興の暁に成長した彼等が日豪でお世話になった方々を自然の景観の素晴らしいこの地に招くことが出来たらとの夢を抱きました。

帰国の日、メルボルンの総領事に生徒達と表敬訪問しました。羽田恵子総領事は継続しているこの事業を後援して下さいました。羽田恵子を日本の事務局と相談しましょうと

現地では来年度の事業の資金の為にカレンダーも完成した、と初年度から4人の子育てをしながら尽力下さっているアトキン加奈さんが伝えて下さいました。

皆々様の大きな愛に改めて深い感謝を申し上げます。

女性医療ネットワーク事務局 担当 成田

お問い合わせ  
女性医療ネットワーク事務局 担当 成田  
Tel: 06-6563-0250  
Fax: 06-6563-109  
メール: info@net.gr.jp

## ● 沖縄 女性の美と健康シンポジウム およびツアーのご案内

日時: 11月22日(日) 午後1時~4時  
会場: 沖縄中部医師会館(定員1000名)  
講演会名: 「女性ホルモンを知ってからだも心も美しく」  
講演者: ①対馬ルリ子(産婦人科医師、女性ライフクリニック院長、女性医療ネットワーク理事長)  
②吉川千明(美容家、メノポーズカウンセラー、さくら治療院、女性医療ネットワーク理事)  
③伊是名力工(管理栄養士、ヘルスプランニング代表)  
「こやかホルモンスベ〜ほんの少しのクセづけで変化が起る」  
センター講師

主催: NPO法人女性医療ネットワーク、やびく産婦人科、小児科  
協力: 沖縄ワルネスネットワーク、ホテル日航アリビラ、沖縄女性財団  
後援: 沖縄県医師会、沖縄県産婦人科医会、沖縄県中部地区医師会  
協賛: 花王株式会社、株式会社ちまーす、ドコモ・ヘルスケア株式会社

11月21日 午前 JAL、ANA機にて沖縄へ  
専用バスお迎え 泊: ホテル日航アリビラ  
11月22日 午後 シンポジウム 夕方 懇親会  
泊: ホテル日航アリビラ

11月23日 専用バスで観光し、夕方JAL、ANA機にて帰路へ  
\*羽田、大阪、札幌、福岡からもご参加頂けます。

女性医療ネットワーク事務局 担当 成田  
Tel: 06-6563-0250  
Fax: 06-6563-109  
メール: info@net.gr.jp  
沖縄ツアーリスト(株) 担当 中原様  
Tel: 03-5408-5200  
Fax: 03-5408-5202  
メール: tyoo@otsinfo.co.jp





# 自然豊かな八ヶ岳で いのちの原点に立戻り美と健康を世界に発信

コミュニケーションユニット 広報担当  
小山るみ ● Koyama Rumi

アルソア本社株式会社は「人と自然との調和」を基本理念の中に掲げ、化粧品や健康食品、浄活水器の研究・製造・販売を行なうメーカーです。2017年には、創業45周年を迎えます。

1998年に、東京・渋谷から八ヶ岳の麓・山梨県小淵沢町（現・北杜市）の標高約1000メートルの地に本社を移して17年。

イタリアの世界的建築家マリオ・ペリーニ氏設計による芸術的な社屋という環境で、美と健康の追及を続けています。

北杜市は、八ヶ岳や南アルプス、甲斐秩父の山々に囲まれ、富士山を望む有数の高原の町で、豊かな自然と湧き水に恵まれています。アルソアは、その自然豊かな環境の中で製品の研究開発を行なっています。製品は長野県佐久市に移転した自社工場アルソア佐久ファクトリーで製造されています。

本社や工場移転の大きな理由は、アルソアが製品づくりの上でもっとも大切にしているのが、基本となる「水」だからです。化粧品には、佐久市を流れる八ヶ岳水系の豊かな水をろ過し、独自のミネラル層に通し肌馴染みのよいミネラルバランスを整えた「アルソア水（常水）」を使用しています。もうひとつは北海道の十勝川流域から運んでいる世界有数の「植

物性温泉水（モール水）」です。安定した水の品質を保つには日々の検査や分析が欠かせず、研究者や技術者たちの思いが、高品質の製品を産み出しています。

さらに、美と健康の基本となる毎日の「食」にも水同様のこだわりを持っています。17年前の本社移転時につくったのが、マクロビオティックの考へ方に学んだ日本初のオーガニック社員食堂「ザ・ガーデン」です。自社農場などの無農薬または低農薬の野菜や、天然魚などの厳選された食材を使い、予約をすれば一般客でも社員食堂の利用が可能です。

また、NPO法人美と健康生活を考える会を通じて、地域・社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。例えば、山梨県男女共同参画推進センターと共催する「女性のエンパワーメント講座」などで、女性の美と健康や社会進出を支援しています。東日本大震災の発生時（2011年）には、直近に開催の市民公開講座に、対馬ルリ子先生をお招きしたご縁で、山梨県内の女性に衛生用品の支援を呼びかけたところ、6万枚を超えるタオル類など大量の物資が届きました。センターを通じて女性医療ネットワークや各県の災害支援団体に提供することができました。引き続き、美と健康を中心とした事業活動や社会貢献に努めて参ります。

## 事務局から

### ● 忘年会のお知らせ

今年も女性医療ネットワークの忘年会を12月20日（日曜日）15時より開催致します。

今年も記念の年ですので沢山の方に参加して頂きたいと思い、楽しい企画を計画しています。

会場は未定ですが、12月20日を今から空けておいてください！

当日10時より宮川めぐみ先生によるジョイラボ講座「内分泌」、そしてジョイラボ「女性健康アドバイザー」授与式も予定しております。

昨年の忘年会では「国境なき料理団」の本道佳子さんがビーガン料理を会場で作って下さいました。

昨年忘年会の様子



### ● 事務局移転のお知らせ

11月15日に女性医療ネットワーク事務局が引っ越します。

#### ● 新住所

〒104-0061

東京都中央区銀座2-6-5 銀座トレスヤスビル7F

対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座内

電話番号、eメールアドレスの変更はございません。

### ● 白衣を販売しています！

女性医療ネットワークマーク付きの白衣を販売しました。素材がよく動きやすくできています。サイズはS、Lがあり、一枚5200円で販売しております（送料として別途1000円いただきます）。お問い合わせは事務局までお願いいたします。

### ● お願い

会費をお振り込みの際はお名前を特定できない場合がございますので、必ず会員様の個人の名前を明記するようお願い申し上げます。

